

No.	ご意見
基本方針全体について	
1	・基本方針の策定について評価する。
1. 基本方針策定の考え方	
2	・住民も観光客も「町田のまち」に何を求めているか焦点をあわせたい。
3	・なぜ「観光」ではなく「観光まちづくり」か、個々の「観光」という「目玉」をいかにつなげ、PRし、組織化し、一体感をもって継続していくか。その中心的要因として、観光の目玉と担い手が重要。
4	・図と基本方針策定がマッチしない。
5	・市民の中に事業者を含めない方が良い。
6	・地域資源と地域素材の使い方が曖昧。
2. 町田市の「観光」を取り巻く現状と目指すべき方向性	
7	・現状認識、課題認識に少しずれがある。
8	・項目出しが甘い。課題を深めないと達成目標が軽薄なものになる。
9	・現状に「外国人対応ができていない」を追加するべき。
10	・課題に「観光インフラ整備の充実」を追加するべき。(ハード・ソフト含め)
11	・「地域素材の魅力が届いていない」とあるが、地域に眠る磨かれる前の素材なのだから、来訪者がその魅力を理解するのは難しいのでは。
12	・方向性にも「観光インフラ整備の充実」を反映した表現にするべき。

	13	・「2. 町田市の「観光」を取り巻く現状や町田の主な地域資源であり商業が盛んであることに触れていない。「買い物が楽しい」という部分も観光資源と捉え目指すべき方向性の検討材料に含めてはどうか。
	14	・町田の主な観光資源は、有名なものから、あまり知られていないものまで挙げられているので、知ってもらうきっかけになる。
<b>3. 町田市の「観光まちづくり」の将来像</b>		
	15	・「将来像」ではなく「理念」が良い。
	16	・「交流」はいらないのでは。
<b>4. 町田市の「観光まちづくり」の将来像を実現するために</b>		
<b>方針1 町田市ならではの地域素材の魅力の洗い出し・磨き上げ</b>		
	17	・観光資源の発掘に対して、市はどの程度必要性を感じているのか。また、観光資源のPRのため名所・旧跡・遺跡など場所の案内板・説明版の設置に向け予算化を図っていくべき。
	18	・方針1「町田市ならではの地域素材の魅力の洗い出し・磨き上げ」について町田市には動物園や高尾山のように、その存在だけで人々が行きたくなるような知名度の高いものはないが、「日本の里100選」に東京都で唯一選ばれた地域など昔ながらの景観が、今なお息づく都内有数の里山が残っており、活用される価値は十分にある。里山を磨き上げることが一つのポイントではないかと思う。
	19	・小野路周辺、野津田周辺の自然が非常に魅力的である。
	20	・自然と文化財の豊富さは魅力的である。
	21	・地域素材や地域資源の中には、考古資料室の収蔵品のように、市民よりも市外の方の方がより魅力を感じているものもある。それぞれの地域素材、地域資源の特性を把握し、施策を展開して欲しい。

## 方針2 観光まちづくりの担い手と態勢(体制)づくり

22	<p>・担い手については、まちだ観光案内人のガイドウォークツアーや町田自慢サポーターによる情報発信などの取り組みは、内容に適宜新鮮なものを取り入れるなど、工夫が感じられる。態勢は、「限られた人が対象」のものとなっているように思われる。</p> <p>より身近な、高齢者や子供達も参加できるものを、発展させていくことも、底辺を広げることで効果が上がるのではないかな。</p>
23	<p>・幅広い世代が、観光まちづくりの担い手として参加できるよう、態勢づくりを行って欲しい。</p>
24	<p>・観光分野に携わる人材の発掘及び育成、資金の確保が重要である。</p>
25	<p>・地元の人々が自ら地域の魅力を知ることが重要である。まずは、ボランティア等、小さなところから人材の発掘につなげてはどうか。</p>
26	<p>・外国人留学生・ボランティアの活用(通訳・翻訳)</p>

## 方針3 地域素材が持つ魅力の伝達

27	<p>(1) 外部展示会への積極的参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都庁第一庁舎2階「全国観光PRコーナー」に参加し、町田の観光の魅力を紹介する。</li> <li>・東京ドームで開催される「ふるさと祭り東京」での観光PR</li> </ul> <p>(2) マラソン大会の検討</p> <p>市民マラソンを通じて町田の観光・グルメ・特産品に触れ合う機会をつくる。</p> <p>(3) 市の鳥「カワセミ」を印象づける</p> <p>下水マンホール蓋の絵柄を人気の「カワセミ」にし、カラー化する。町田市イコール「カワセミ」として印象づける。</p> <p>(4) 小田急線・JR横浜線「町田駅」の電車発車メロディーの検討</p> <p>最近、いろいろな駅で発車メロディーを聞く機会が増えているが、町田ならではのメロディーがあってもいいのではないかなと思われる。例えば、里山を感じさせる「埴生の宿」「里の秋」など</p> <p>(5) 交通の流れに検討を加える</p> <p>町田の地形は細長く、相原方面への移動に直接繋がっている路線バスがなく、同じ町田でも相原が遠く感じられる。</p> <p>相原には、たくさんの観光素材があるが、行くのに時間がかかる。</p> <p>モノレールや小田急多摩線の拡充が進められているが、相原と町田の中心部とを一本で繋ぎ、お互いの接点を増やすことも、町田市の観光素材が持つ魅力の伝達に効果が上がるのではないかな。</p>
----	--

28	・ターゲットごとに、地域素材や地域資源の魅力をより効果的に伝達する手法を検討し、特に影響力の強いSNSについては、積極的活用を図ってほしい。
29	・各地域資源の中から、最もブランディングを強化できる資源を絞った方が良い。他の地域に比べて、飛び抜けたものがないのが課題なので、飛び抜けるように作りこみする方法が最も課題解決に近いはず。一つの地域資源がブランディングに成功すれば、おのずとほかの資源についても注目される。
30	・情報発信は、関係する団体が同じ意識の元、戦略を理解し、各組織が得意な形で取り組めればなおよい。
31	・基本方針1と3は「町田市ならではの地域素材の洗い出し、磨き上げ、伝達」まとめるべき。
32	・方針3を「だれもが安全・安心に行ける受入環境の充実」、福祉のまち町田をPRするには方針3が一番はじめにくと良い。
33	・町田市は魅力的な観光資源があるのに市民に上手く伝わっていない。 広報の仕方次第では、市域内の滞在時間の増加や市内外からの来訪者の増加にも繋がる。
34	・町田の地域素材が持つ魅力を多くの人に伝える手段として外国語による情報発信がある。町田市内の観光情報を発信する場合の使用言語については、よく検討した上で情報発信を行って欲しい。

5. 将来像の達成目標	
35	・短期・中期・長期の目標を明確にするべき。
その他	
(観光プログラム)	
36	・バスで巡る町田のツアー等を企画してはどうか。(歴史・自然ツアー町田駅発)
37	・ガイド付ウォーク大会の開催。
38	・西山美術館は魅力的である。市で、小さな美術館から大きな美術館(版画美術館)までのツアーを企画してはどうか。
39	・恩田川のさくらツアーの開催。
40	・外国人向け歴史ガイドツアーの開催。
41	・外国人向け日本語教室の開催。
42	・義務教育の中でまちへの愛着・誇りを持てる授業や課外行事の実施。
43	・市民大学の講座のなかには、観光ガイドの方が利用できるプログラムがいくつもある。町田観光コンベンション協会と、町田市大学や環境保全市民団体が連携をもっととり、観光プログラムを開発し充実させていくことが可能だと思う。
44	・町田は「フットパス」のトップランナーの存在である。訴求とブランディング次第では、最も期待できるのではないか。
45	・2012年に、町田市民大学の「まちだdeエコツアー」という講座を受講したが、このような、未来にとって重要な環境に関する取り組みを紹介するようなツアーを、観光活動の一環として洗練していったらどうか。
(ハード整備)	
46	・町田駅周辺の繁華街は、案内図もわかりづらく整備が進んでいるとはいえない。観光地としては課題である。
47	・観光スポットを巡る観光バスの運行。
48	・教育の場として「触れられる博物館」の開設。

(組織)	
49	・市役所内での新組織を立ち上げ、市長が新組織の必要性について認識を持ったうえで、新組織の設置や人材の配置を行う必要がある。
50	・町田市国際観光部門の設置。
51	・今回の方向性の具体策として、教育委員会と経済観光部が力を合わせ、旧村民の協力の下に地域観光資源の発掘プロジェクトを立ち上げてはどうか。
(広域連携)	
52	・相原地区や小山地区でも相模原市と一体化することで、歴史文化資源の可視化が広がる。町田市合併以前の旧村単位の文化の掘り起しが今求められているのではないか。
53	・広域連携(多摩市・相模原市)の強化
54	・都内26市の役所や博物館に文化交流の一環としてチラシを置くのはどうか。
55	・広域連携の強化（八王子市、多摩市、相模原市）
(PR)	
56	・小田急デパートの催事場等で、「町田市うまいもの物産展」を定期的を開催してみては。(ぽっぽ町田はわかりにくい。)デパートでの販売会は有効である。
57	・地域の良さをイメージアップして「多くの人が集まり、集う街」「住みやすい街」を創るのは、転入者だけでなく住居者にとっても願うこと。「まちの活力」を生む。こうした「活力あるまち」づくりは、「住みたくなるまち」「住みやすいまち」となるはずである。何で誰が活力を生むか、それが問題。
(観光まちづくり基本方針検討委員会)	
58	・観光は多分野に渡るため、検討委員は幅広く募った方が良い。